

～未来へ向かって～

South Dream3 『地域医療を守ろう!』

日時： 令和6年1月18日(木) 5、6時間目

場所： 袋井南中学校体育館

講師： 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター

企業長兼院長 宮地 正彦様

岐阜生まれ、名古屋大学医学部卒業

アメリカの大学に留学、名古屋大学医学部、愛知医科大学医学部特任教授を経る

演題： 『医療者となって地域の医療を守りましょう』



【取り組み】

- コロナ禍での尽力(病院長会議を提案)→医療崩壊状態を防ぐ、患者を救うために積極的に行動
- コロナの風評被害に対する対応→風評被害について職員・病院を守ろうと行動
- 地域医療への貢献を目標にしている→医師不足の解消を目指すとともに、医療体制の充実を図る
- 若手医師の育成を目指している→高水準の教育研修ができる病院を目指す
- チーム医療に近づくように尽力→病院内外のコミュニケーションを円滑する
- 「2つの病院」を「1つの病院」にする努力→同じ方向を向けるように、1つの目標を設定する

Q：『大切なこと』はどんなことか？

A：努力をしなければいけないこと、向上心があること、他の人に気遣いができること、苦しくなってもその場に留まること、人との交流の中で自分を伸ばしていこうとする気持ちが大切！

Q：『医療トラブル』を防ぐには？

A：チームとして取り組むこと！医療トラブルの原因を見付け、正すことが重要。患者さんのせいにするのではなく、冷静に判断ミスがあったかを振り返り、技術を改善していくよう真摯に努める。



常にどうするのかを考え、人から学ぶことが自分の成長につながるようになりました。「できないから仕方ないな」と苦手なことをやらないのではなく、できないことは「なぜだろう？」と原因を求め、理解し、挑戦することが大切だと知ることができ、「不器用だから努力する」という言葉を合い言葉に頑張っていきたいと思いました。また、一人で学ぶことには限界があり、人と学んでこそ力が付くのだと分かりました。

一番大事なのは「心」、心を落ち着かせることで最高のパフォーマンスができるようにしていきたいです。



人は変われるということを知りました。宮地さんのお話から、器用でなくても努力すればできるし、目標を見付ければできる、ということを知って、私にも変われることができるかもしれない、と知って少し自信が付きました。クイズで中東遠や医療の現状のことも分かり、たくさんの人の命が助かっていることが分かって嬉しかったです。

苦手を伸ばす方法、気持ちを落ち着かせる方法を自分で見付けていきたいです。



悩んだとき、後ろを向くのではなく、留まってみる、という言葉が印象に残っています。私は何か悩みがあるとそれに気持ちを左右され、やらなければいけないことに手が付かなくなってしまうときがあります。宮地さんのお話のように考え過ぎない、他のことで気分を変える、冷静になって見つめ直す、ということは今後、心掛けていきたいです。また、苦手なものこそ、自分から積極的に取り組み、努力を重ね、克服する、ということの大切さにも気付くことができました。

これは私たち3年生が目前に控えた入試への取り組みにもつながります。今からの受験勉強に取り入れていきたいと思いました。

部活動で頑張っている人、進路選択を控えている人、いろいろな面で努力している人のためになるお話でした。器用でないなら努力すればいい、ということは「得意でないからこそ、人一倍、努力することが大切」だと分かりました。自分の意識を変える良い機会となったと思います。

代表挨拶 半田思枝さん